明るい郷土
住みよい高萩

高萩市 生活改善

第10號
毎月一回5日発行
発行　高萩市役所
編集　農林課
印刷　藤枝印刷所

指定された 新生活モデル団体

旧来の生活を刷新しようとする気運が、生活科学化運動とか、生活改善運動とか色々の言葉で新生活えの運動が展開されている。そしてその運動が地域にも職域にも、そして個人的にも団体的にも、市内の隅々まで響いて来たではなかろうか。その言葉はどうあろうとも、帰するところは我々個人の尊厳を源とした家庭生活の科学化或は社会生活の改善にあることに異論はあるまい。

生活の刷新は言うことは易いが行うことは誠に難かしい。地域的に実践目標を設けて申合せることは今日でも出来る。しかしこれを完全に実践し、実際生活の刷新に及ぼすことは極めてむずかしい事である。

物的改善、形式的生活改善は度々過去において行はれたが一時的行事として大体が失敗に終つたことを想起すれば、生活様式態度を刷新する精神運動こそ、この運動の中核であることが了解できると思う。

第二次世界大戦後、戦勝国がいち早く生産と消費の合理化を叫んでその推進に猛進しているとき、我々は過去十年間、敗戦後の混乱による泥まみれの日常から敢然立ちあがつた結果漸く生活は安定された。

この努力を、さらに鞭うちつゝ決意と勇気をもつて、新生活を築きあげ、家づくり町づくり国づくりに向いたいものである。

茨城県においては昭和二十六年度から生活科学化推進運動と併行して新生活モデル町村（団体）選定と表彰事業を実施してきたが、なお今後も継続実施されることゝなり、本県下における新生活実践団体の中から、実績のすぐれている団体をモデルとしてその内容を広く紹介し更に一層この運動の意欲を向上させるため、第六回新生活モデル団体を選定しその中から優秀と認められるものを表彰することになつた。

本市よりの参加団体及び実践部門やこれまでの実績と今年の達成目標は次の通りである。ことしの県参加団体は次の二団体であるが市は前年度参加された四団体と今回参加された二団体を加へて六団体を二ヶ年指定するものとし、その実績を市広報紙で紹介して皆様の実践活動の資といたしたい。なお関係各位の絶大なる御指導と御批判を賜ればお幸せである。

【第一部門】

迷信因習の打破、冠婚葬祭等生活行事の簡素合理化
高萩礦社宅代表者　原口良英

◇これまでの実績
一、結婚諸式の合理化
(1)、式及披露宴の簡素化
(イ)、挙式料一、〇〇〇円
(ロ)、披露宴（引出物付）一人前二五〇円
(2)、結婚衣裳の簡素化
会社にて貸与借料五〇〇円
(3)、祝儀の弐百円均一化
(4)、共同施設の利用
六、結婚諸式の合理化
(1)、調度品の実質化と健康診断書の交換実行
(2)、これまでの実績に掲げた事項の完全実施
二、葬儀諸式の合理化
(1)、飲食の簡素化
(イ)、葬儀手伝人の手弁当持参
(ロ)、通夜時の酒肴接待禁止
(ハ)、会葬者の清めは門前にてすます。
(ニ)、手伝人の清めは酒宴とならぬようにする。
(2)、香奠返しの廃止
(3)、因習慣礼の廃止
三、年末年始中元等の廃止又は簡素化を目標とし出来なければ気持だけとする。（百円程度）のもの
(1)、出産、節句、病気見舞等の簡素化。
(2)、祝返し見舞返しの廃止。
(3)、七五三の簡素化。
(4)、虚飾をやめて服装は実質的なものを選ぶ。
(5)、酒、時間の厳守

◇ことしの目標
一、結婚諸式の合理化
(1)、調度品の実質化と健康診断書の交換実行
(2)、これまでの実績に掲げた事項の完全実施
二、葬儀諸式の合理化
(1)、飲食の簡素化
(イ)、葬儀手伝人の手弁当持参
(ロ)、通夜時の酒肴接待禁止
(ハ)、会葬者の清めは門前にてすます。
(ニ)、手伝人の清めは酒宴とならぬようにする。
(2)、香奠返しの廃止
三、(1)、年末年始中元等の廃止又は簡素化を目標とし出来なければ気持だけとする。（百円程度）のもの
(2)、出産、節句、病気見舞等の簡素化。
(3)、祝返し見舞返しの廃止。
(4)、七五三の簡素化。虚飾をやめて服装は実質的なものを選ぶ。
(5)、酒、時間の厳守

【第二部門】

生活と環境の保健衛生的改善
向洋礦社宅代表者　野田家利

◇これまでの実績
一、昭和三十年三月より毎月十日を衛生日として社宅の環境整備、美化
二、井戸改善による飲料水の細菌絶滅実施
三、防虫の徹底
蚊、蝿の撲滅
四、伝染病予防の徹底
五、正しい受胎調節の普及
家族計画の確立
一、溝の清掃
二、社宅の環境整備に加え排水施設の実施
三、植樹による緑化
四、蚊と蝿の撲滅

一票につながる 國の浮き沈み

來る七月八日午前七時から午後六時まで（舊高岡地區及福平は午後四時迄）參議院議員の通常選擧のため投票が行はれる事は御承知のことゝ思います。これについて過去の經驗から次の事を是非共知つて戴かなければならないと考へます。

一、投票のできる人

日本國民で滿二十才以上になつてしかも選擧人名簿にのつてる人。

一、候補者を知る方法

立會演說會、ラジオ放送、選擧公報、氏名揭示、新聞廣告、個人演說、街頭演說。

一、投票の仕方

入場券を示し黒色の投票用紙に地方區の候補者一名を**ハツキリ**書いて同じ箱に入れ次に赤色の投票用紙に全國區の候補者一名を**ハツキリ**書いて箱に入れる。候補者でないもゝの氏名、記号、符号、單語、文句等候補者の氏名以外のものを書くと無効になります。

一、心構え

すこやかな常識と鋭い良心とで判斷し情實や誘惑を排し棄權しないこと。

（選擧管理委員會）

＝蚊とハエの撲滅にかく斗う＝

ハエ、蚊を撲滅しろとの声は、こゝ数年来急に高くなつてきた。厚生省でも、多額の予算を組み、全国各所にモデル地区を指定、また新生活運動も協力して大いに馬力をかけることゝなつた。

ハエや蚊をなくそうという運動はわが国ばかりでなく世界のどこの国でも「伝染病を媒介する蚊虫類を撲滅しよう」との標語をかゝげその運動に乗り出すことになつたとの事である。

いまが蚊やハエ退治の絶好の時期でもあるし、世界の国々と歩調を一つにして進める好機でもある。

おそらくこれから世界各国文明化の高さをはかるにはその国のハエや蚊の数の多少によつて知ることが出来るであろう。

いづれの面からみてもその撲滅運動は必要であるので各戸がDDTやBHCの油剤、乳剤を散布して驅除に努められることは勿論、ハエや蚊のいない市にするよう各部落々々の共同防除で根こそぎ退治して、楽しく生活できる毎日を作り上げたいものである。

次に全国で最も優秀なる成績を収めている。

◉埼玉県大利根村の例を紹介しよう……

伝染病の恐怖と自然環境の悪條件にうちかち全村協力して蚊とハエを撲滅して環境衛生模範地区として保健所、県知事、厚生大臣の表彰をうけた埼玉県大利根村豊野地区は数多い農村におけるこの種の成功例のうちでもその組織活動の堅実な発展の過程において最も典型的のケースとして注目されている。

話題の地区は埼玉県の東北端、利根川を隔て、茨城県に接する戸数五四四戸（うち農業四五五）人口三、四五一の純農村で利根川の水面より三米も低い濕地帯で特に昭和二十二年のカサリン台風は全村の再起が危ぶまれるほどの甚大な被害をもたらした。農作物の被害は勿論その後伝染病の蔓延も激しく村民は暗らい生活に追い込まれた。特に昭和二十六年四月には二名の赤痢患者が発生し忽ち三〇名に伝染し五名が死亡した。

このような伝染病の悲劇に村民は不安と恐怖にかられ且經済的な負擔に生産意欲の消失にまで悲劇が延長されようとした。

このとき農事実行組合では伝染病を媒介する蚊とハエを撲滅という根本的対策が決議されその実践となつたわけである。

村のさきがけとして灼子木部落が衛生班を組織し一戸当り平均四八三円の血の出るような金を出し合つて蚊とハエの驅除と環境衛生施設改善運動を始め加須保健所長から環境衛生モデル地区として全村にその実践状況を発表した。そして全村的な衛生委員会の組織となり苦しい村の村政からこの事業のために七十万七千三百五十円の予算が議決され全村をあげての涙ぐましい努力が遂に報いられて蚊とハエのいない村が出現した。

運營に当つては衛生班が骨幹となり十戸に一名の班員が一六名をもつて一衛生班を編成し其の他は愛育班（婦人）及び少年班が組織され清掃、除草等簡易な作業に従事した。

これがため昭和三十年六月の調査によれば蚊＝蚊帳をつらない家が九〇、二％ハエ＝全くいない＝四一三戸。一四位いる＝五八戸。数匹いる＝一四戸。

となつている。これにより蚊帳、蚊取線香、ハエ取紙などの一世帯平均四百円の費用は無用となり、伝染病の発生も実施前の三〇名から三〇年度には僅か一名に減少した。

また生産面に於ても鶏の産卵率は二一％増、牛馬は肥えた上によく睡眠しその飼料一七％が節減された。

現在に於ては便所や堆肥の防蠅設備、井戸、流し場、下水等が整備され、更に土地改良による灌水排水と生産と生活の結びついた快適な農村と変りすべての悲劇が始めて解消された。

この運動を推進している大利根村豊野地区の支所長大谷左工門さんは

「この村がこれまでになつたのは全く村民の理解と一致団結の賜で衛生関係ばかりでなく今後の村のすべての面にプラスされることは何よりだ」と喜んでいる。

農薬パラチオン使用上の注意

パラチオンは個人で使用できないから必ず市役所農林課に申出指示を受けること。

(1)散布作業は帽子マスク手袋をつけ直接皮膚にふれないようにすること。

(2)風上より散布し数時間一人で行わず交代で行う。

(3)原液は勿論散布液でも皮膚についたら必ず石鹸でよく洗うこと。

(4)中毒症状があつたら応急手当をして医者の指示をうけること。

苗代共同防除の状況
本市の水田面積825町歩
苗代防除に要した農薬費25万円

◎今年から　月おくれのお盆を実行しましょう!!

・昨年十一月新正月の実行と月おくれのお盆のことについて、与論にただした結果、意見を寄せられた方は多くはなかつた。

しかし来たものゝうち、新正月の実施には反対が二、三人ありましたが、月おくれのお盆については全面的な賛成を得ました。

そこでこのことは与論調査の結果とはみられないが、本年のお盆からは一ヶ月おくれの新暦【八月十三日】に行うよう全市民各位の御協力を切望いたします。

"衣改善は……上服なしのノーネクタイで"

七月から九月中旬頃までの暑い最中の各種集会や、執務にはノーネクタイ上服なしの軽快な服装にしたらどんなに仂きよく住みよい事でしよう。お互に気がねせず、皆んな実行いたしましよう。

新名勝地とともに

―躍進する高萩

神長吉衛

◇稚児行列

石滝農蛭田松之助氏（七十七才）が「信仰に生きたい」と言う強い念願のもとに、全私財を投げ出し、高萩市の南玄関である景勝の地、花貫の高台に、日本山妙法寺高萩道場を建設中のところ、このほどやつと竣功し、開堂供養奉賛会主催のもとに、高萩市、高萩市商工会、高萩市観光協会、其他の団体、会社等が後援し、六月十二日夜は本町通りに御佛像を安置して、前夜祭の法要と各種余興を行い、十三日は練供養、稚児行列、開堂供養等を行つた。

十二日はあいにく雨で人出が少なかつたが、十三日は天候に恵まれ、北は仙台、南は九州方面から集つた僧侶三十名、稚児五十五名、東京方面の信徒三十名其の他、元地の有志及信徒多数による行列お練りがあり、午前十時本町通り発、小桜町を通つて駅前に至り旭町から再び本町通りにでて安良川まで歩き、こゝからバス二台で花貫へ向つた当日は旧端午の節句でもあり、見物人は黒山の様であつた。

よく晴れ渡つた青空に、うちわ太鼓が鳴りひびき、良い子ばかりの可愛いらしい稚児さん達は、お化粧をして口紅をさし、揃いの衣裳に金の冠をつけ、みんなすましてよそ行きの顔をしお父さんやお母さんにつきそわれて行列をした。

この人気者たちは、大勢のカメラマンに追いかけられながら、誠に幸福な一日をすごした。

これは近来にないほほえましいことであつた。

その日は午後から藤井日達上人ほか僧侶、地方有志信徒など多数参列して、開堂供養が盛大に催され、夜は本町通りで楽団や映画があり、一日中にぎやかであつた。

◇開堂供養奉賛會

蛭田老人は関本村粟野出身で、今日まで高萩に十七年間も住んでいるが、何等為すところなくすごしてきたので「高萩へ何か良い物を残して死にたい」と考え三十年の春、寺院を建立して出家すべく決心し、その年の秋、私のところへ相談をもちかけてきたが、日本山妙法寺の信者でない私はどうしてよいかわからなかつた。

しかし、良く調べてみると、寺院建立の場所は、その昔、稲村千軒時代の長者屋敷跡であり、太平洋を一ぼうのうちにおさめ、風光極めて明媚なので、将来こゝを高萩市の観光地として発展せしめるとともに、市民のための修養道場にするならば、必ずや市民の皆さんに喜んでいただけると考へ、その線で協力することにした。

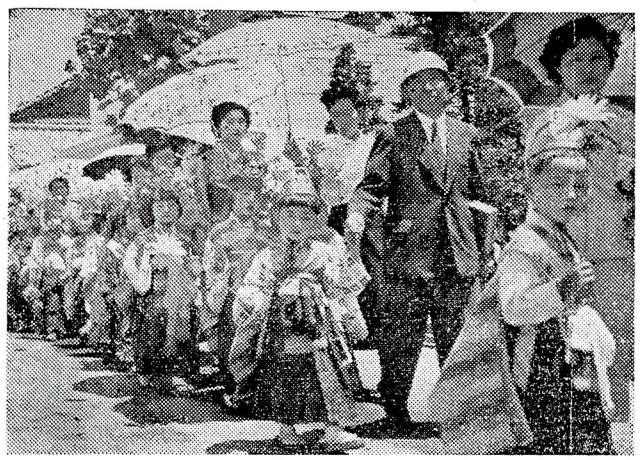
一方、蛭田老人は十二月十六日に地鎮祭を行い、本年一月、東京浅草大塚建設株式会社により工事着工し三月十一日に上棟式を行つた。

その頃私は、これが後援行事を後援する」と決定した。これは本当に有難いことで感謝にたえなかつた。

そこで私は、開堂供養奉賛会をつくり、蛭田老人の前途を祝福するとともに、観光地としての日本山妙法寺高萩道場を世に紹介したいと考え、市長、議長、商工会長、市内有志等に御願いしたところ、各方面の御賛成を得て五月二十日、市役所会議室に於て奉賛会が成立し、広く会員を募集して金を集め、その金で一切の行事をまかない、市の方に迷惑をかけない様にすると云う申し合せができた。

御蔭で空前絶後の開堂供養は誠に盛大に行はれた。

これにたいし蛭田老人は涙を流して感謝するとともに「市民の皆さん、有難うございました。御蔭様で道場が出来ましたから、どうぞ御利用下さい」と云つている。



（写真は本町通りを練る稚児行列）

方を商工会と観光協会に懇願した。

その後いろ〳〵な都合で工事は若干おくれたが、六月十三日に開堂供養のはこびとなつたので、五月の始め頃商工会にたいし、これが後援方を再度御願いしたところ、五月七日の常議員会に於て「前夜祭に関する市内に新しい名勝が出来たりする。

また、印度人をうけいれて国際都市に躍進し、高萩はアジア人文化交流の地ともなる。

みんな楽しいことであるそして、市民の生活環境は肉体的にも精神的にも大きく変化し、高萩はますます良いところになる。

これが本当の生活改善である。

この点を一番よく理解している商工会は賢明であると思う。

市の発展はこの様なところから生れてくるので、私達の計画にたいし、どなたも御賛成願いたいと考えている。

私は、市民のためになることなら、宗教も政治も超越して奉仕したいと考えている。

「生きているうちに、高萩の為になる仕事をしたいと云う気持は、蛭田老人と少しも変らないのである。

また「良いことは一つづつやつて行きたい」と思うので、道場の利用については、特に、青年会や婦人会の御協力を願いたいと思う

御案内の通り道場は非常に景色のよい処にあるので「憩の場所」としても是非利用をおすすめしたい。

＝三一、六、記＝

◇印度人がくる

日本山妙法寺の藤井日達上人は、印度ネール首相と特に親しく、現在印度に寺院をもつている関係上、印度の青年を日本へおくるから農業指導員にしこんで貰いたいと頻まれている。

この印度留学生は、国際情勢が急変しないかぎり、来年の春頃までに高萩道場へ来ることになつている。

いよ〳〵高萩も国際都市に躍進する時が来たのである。その時までに高萩は、もつともつと気分の良い町にして、日印親善の民間外交につとめなければならないと思うのである。

◇高萩を良くしたい

私達が現在やつている計画が完成すれば、楽しいハイキングコースができたり

（親）（心）ということ

柴田耕

「のど自慢」の予選に、落ちても落ちても、こりずまずにまたつてくる小さい女の子があつた。放送局の人達の注意をそらくにひいたのは、いつも母親の熱心さだつた。熱心さつたら一筋縄ではゆかない。何かに思いうよりは悲そうなものが娘のテストにじつと見入るその眸にとめられてゐたならばよほどの子だつたにちがひない。

あまり豊かでなく派手やかとはいへない暮しをしてゐるらしいその母と娘の目だつてみすぼらしい身なりは、このテスト風景をいつそう切なるものにしてゐた。

しかしこの娘のテストにはどうしても放送局の人の方がいいにきまつてゐるやうに思はれた。

それがどうしたことか、ブツリと姿を見せなくなつたのである。あきらめてくれたのかと、ホツとしたやうな気持ちで忘れるともなくしてゐた或る日、のど自慢公開放送のあるスタヂオの一隅に多勢の聴衆に混つてひときわけばけばしい洋装をしたその女の子がゐるではないか。

なんとその子が見違へるやうに美しい姿であらわれたのである。

おどろいて見直すと、その隣りにはやはり母親が影のやうについてゐた。

かなしいかな洗いざらしの浴衣着の姿ではあつたが、目ばくるめくような舞台の歌い手を見つめていたこの親心をなんと解したらよかろうか。

×

ある有名十代スターの父親と、某一流漫画家の対談画家「どうです、娘がこんな人気者になつて、おやじとして驚いているでしよう

父親さも満足げに「これは女房と私の長い間のプランでしたでしよう。ぼくはスターがいれば仕事が非常に都合よいから全力を注ぐべくたのしみです。娘は全くの手持ちスターでしよう。そう計画してそう育てあげたんですよ」この親心もまた何と解すべきであろうか。

×

或る子無しの人があいたその家で十数年も育てあげ風呂も一緒、寝るも一緒にと思ふ程の犬が死んだ。そしてその悲嘆ぶりも大変でさゝやかながらお通夜を催したといふ。

場合のうちの客の一人が「君のいゝ犬だかせつかく医者にかゝつて大学三年まで終らないうちに上げた彼は何だ。犬だからと顔をまげられるとは何だ。おれはあの犬を医者にしようとも思わなかつたんだぞ。おれの親心はきみのなんだぞ。おれのちがさうんだ。何と心得たらよかろうか。

×

親心に変りはないといふ事実はかくもさまざまの利己心のあらわれの違いなのだ。そして子を売る方法もかわつてきた。だがどんな売り方にしても文字どおり人身売買と同じように非難されなければならない。子はやがて自身のものとなつてそれは社会のもの、人類のものにはなり得ない。

犬を愛した彼自身も亦自己主義者だつたのである。

×

締切間ぎわに原稿をせまられて、渡辺さんという新聞の編集長さんがいつかいわれたことを思い出しておぼろげな記憶をたどつてみた。その味、何と掬すべきではないか。

（高萩市浜野二）

昨今の行事

△五月二十五日

高萩市役所の職員による職場俳句会が誕生、会員は現在十名位であるが、毎週金曜日の昼休みを利用して、既に五回にわたり句会を行つた。俳句を通して公務員としての情操を向上させてゆくために発足したのであるが、選者に写生俳人押野朗泉先生をお願している。尚会員紹介の意味で句の一端を御披露申上げてみたいと思います。

○風鈴や子なき夫婦となりしこと　はち郎

○旅人にいまみちのくの遅田植　芦

○春の火事見知りの芸妓炊出しに　かつを

○五月雨の女の言葉ひやゝかに　ひろし

○菜殻焼く四方の山の薄曇り　常男

○その中に慣れぬ手つきの茶簡の娘　皐月

○新妻の籠にのぞける夏蜜柑　ひろの

○鯉幟映る緋鯉の池の中　かをる

○亡き夫の愛でし薔薇の前に佇つ　千葉

○ふと止めし田鍬の先の青蛙　春水

○夕立の名残の雫きらきらと　渚

△五月二十六日（土）

午後一時より本庁会議室に於て市長　助役、市議会議長、県職委員長、日立市職委員長等多数来賓出席のもとに高萩市役所職員組合結成大会が催された。

市職組結成についてはかねてからの懸案で着々準備を進めて来たもので数度の準備委員会を開いて協議の結果設立の段階に到つたものである。

大会に於て選任された役員は次の通りである。

執行委員長　佐藤　健雄
〃副委員長　石　平典
書記長　木原　市平
執行委員　山口　安一
〃　佐川　好和
〃　大崎　徳志
〃　柴田　耕
〃　佐川　忠義
会計監査　大部　清
〃　矢代清次郎

△六月四日

本市の特産物としようと今年初めて試作した唐辛子は太田原市吉岡食品工業株式会社の指導によるものであるが試作者十八名に対し現地に於ける栽培指導のためわざ〳〵太田原市より技術員黒野正二氏小池良典氏の二名が来市二日間に亘り各圃場を巡回して懇切なる現地指導をされて帰られた。

△六月八日

秋山小学校四年生約二〇〇名が鈴木正純先生引率の下に現地指導をかねて学校部分林（高萩中学校部分林）の植林状況を見学した。

市役所より綿引助役、農林課棚谷主事が現地説明を行つた。

学校部分林は昭和二十六年と昭和二十八年の二回に国有山林を五十ヶ年の契約で植林したもので十三町余反歩の広大なる面積で中学校の生徒によつて植林され既に三米余に育つている杉もあるほどで生育状況は非常に良い。五十年後には立派な用材となつて校舎の建設に或は学校の色々な施設の財源として大きな役割を果すことでしよう。

△六月十八日

毎年恒例により県内十五市職員体育大会が開催されているが本年も七月二十一日、二十二日の二日間日立市に於て盛大に開催されることになつた。

本市としても職員間の親睦と体位向上を計る意味で昨年より参加、本年も野球、庭球、卓球の三種目に出場することになつたので派遣選手の志気昂揚を計るため大会派遣結団式を同日正午より挙行した。市長より激励のことばをうけた各選手は必勝の信念を固めて早速その日から猛練習に入つた。

当日結成した選手団役員は次の通りである。

団長　綿引　倉蔵
野球部長　大崎　徳志
外選手十五名
庭球部長　大部　清
外選手十五名
卓球部長　佐川　好和
外選手十二名

‖市役所職員異動‖

六月一日付をもつて職員の異動が次の通り発令された（　）内は旧職名である。

總務課雇　小川　裕野（戸籍課）
税務課臨時雇　金沢　勲（新採用）
戸籍課〃　塚本栄子〃
土木課〃　大高五郎〃